

# 新小山市市民病院ニュースレター Shin-oyama City Hospital News letter No.9

<http://www.hospital-oyama.jp/>

〒323-0028 栃木県小山市若木町1-1-5 ☎0285-21-3800 (代表)

## 病院長挨拶

### 身も心も新たに生まれ変わる

3年前、本院は日本医療機能評価機構の評価を受ける予定でした。しかし、私が本院に赴任した直後、受審の時期を2-3年遅らせることにしました。その準備自体が大変で、それよりもまず経営を立て直すことに専念すべきであると考えたからです。病院職員の意識や病院の組織・体制面での改革を行わねばならず、それが最優先事項でした。そう考えて、病院の理念や基本方針を見直し、職員の意識改革や具体的な目標の設定、病院内組織・各種委員会活動の充実に取り組み、結果として短期間で診療実績および経営面で大きく改善しました。しかし、新小山市市民病院が目標とする“皆様から信頼される真の地域中核病院”となるためには、もっと上のレベルを目指させねばなりません。そのためには、病院機能評価受審の機が熟したと考え、およそ1年間の準備期間の後、この5月に5人のサーベイヤー（評価調査者）の訪問審査を受けました。最終結果は、後ほど通知されます。

この間、病院全体で準備に取り組み、最後の1月間は、多くの職員が夜遅くまで機能評価が要求するレベルに達するように頑張りました。審査に合格するという共通の目標を持って皆が作業したことで、職員同士の一体感が強まりました。私自身は、病院機能評価はこれが3回目の経験でした。各種マニュアルの作成とか診療録への記録を“しつこく”要求する審査は、正直、形式的に過ぎると思ったこともあります。しかし今回は、サーベイヤーの視点は、『病院という組織を単なる個々の思い付きや個人プレイの集合としてみるのではなく、組織全体の意思や行動原理がどの程度確立し、個々人に浸透しているか』を問おうとしているのだと納得しました。「病院とは、隅々まで合理的に設計され、その上で行動する有機体」であることに、あらためて気づかされたわけです。新病院が建設され、今まで進めてきた独自の病院改革をさらに進めるためにも、“身も心も新たな病院に生まれ変わる”ことを決意しました。今後とも、皆様の益々のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成27年6月

新小山市市民病院 理事長・病院長 島田和幸

## 主なトピックス

### 硝子体手術の開始を予定しています

平素より医師会会員の皆様には当院眼科へのご協力、ご紹介など大変世話になっております。

眼科診療が再開し2年を過ぎ、島田院長のご支援や病院のスタッフの努力もあり、昨年度は年間500件近い眼科手術を無事行うことができました。

当科では患者様を一人の医師が請け負って診療に携わるのではなく、疾患や治療方針に応じて複数の先生達で患者様を治療していくチーム医療の体制を取っています。現在、私を含め他病院でも勤務している6名の眼科医が協力しあって診療にあたることで、効率的かつ安全に手術を行えるよう心がけております。現在は白内障手術が3ヶ月待ちの状況ですが、最新の硝子体手術機器の導入も決まり、新病院の移転までには重症な白内障や硝子体手術も安定して行えるよう眼科スタッフ一同、鋭意準備中です。一概に眼科受診される患者の平均年齢は高く、小山市には3万人近くの65歳以上の高齢者が在住し、糖尿病や高血圧などの基礎疾患を抱える眼科患者が多いため、他科の先生方の協力がかかせません。更に全国的にも眼科医、特に勤務医としての眼科医は絶対的に不足しており、大学病院でさえも関連施設に派遣する余裕がない状況が続いています。

それ故、今後も医師会の皆様方のご支援、ご協力のほど何卒宜しくお願い致します。(眼科医師 今井 康久)



# 新任副院長と新任医師からのご挨拶

☆4月1日より 脳神経外科 宮脇先生 が副院長に着任されました☆

この度、4月1日より副院長兼脳神経外科部長を拝命致しました 宮脇 貴裕(たかひろ)と申します。宇都宮市出身で、平成4年に自治医科大学を卒業し、以後栗山村立国保湯西川診療所など、栃木県の僻地医療に従事致しました。平成14年脳神経外科専門医取得、平成15年には自治医科大学大学院を卒業し、平成17年から平成20年までは、米国ニューヨークにあるアルバートアインシュタイン医科大学に、脳梗塞の基礎研究のため3年間留学する機会をいただきました。帰国後より脳神経外科学講座講師として自治医大救命救急センター、脳神経外科、平成23年から平成25年3月まで芳賀赤十字病院で勤務しました。平成25年4月より新小山市市民病院に派遣となり、平成27年3月で自治医科大学を退職致しました。

脳血管障害の外科治療、特に脳血管バイパス術を専門にしております。自治医科大学はじめ、当院の患者や芳賀日赤でも脳梗塞予防の手段の一つとして、脳血管バイパス術を数十例に施行致しました。またクリッピング術、慢性硬膜下血腫の穿頭術、開頭腫瘍切除術など、一般的に脳神経外科で行われている、すべての手術対応が可能です。

平成27年内に当院では脳卒中センターの設置、新病院移転後はstroke care unit(SCU)の設置が予定され、脳神経外科関連の患者数は増加が予想されます。小山市に唯一存在する外科手術可能な病院として、神経内科とチームを組んで質の高い脳卒中医療の提供に邁進する所存ですので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



☆4月1日より 11名の新しい先生方が着任されました☆

2年前より自治医科大学アレルギー・リウマチ科に勤務し、平成27年4月より新小山市市民病院アレルギー・リウマチ科に着任しました佐藤健夫と申します。

平成4年に東京大学を卒業後は、平成21年まで都内でアレルギー・リウマチ性疾患を専門として勤務していましたが、北海道のオホーツク地区の病院でリウマチ専門医・内科医が大量退職し、いわゆる医療崩壊の状態となったのを聞いて、困っている地域の方々のために少しでもお力になればと思い3年間北海道で自分の専門以外の内科全般も含めた診療、ご高齢の方の診療を行って来ました。

これまで新小山市市民病院では自治医科大学アレルギー・リウマチ科医局より外来診療のみを担当させていただいておりましたが、4月から入院診療も行える体制となりました。重症の臓器合併症をお持ちの方の場合には大学病院と連携して治療を行うことも可能です。

新小山市市民病院ではアレルギー・リウマチ性疾患の診療が主になると思いますが、内科医として専門外の診療を行うことは自分自身の能力を向上するために必要ですし、ご高齢の方の診療を行うことは地域に貢献するために必要だと思っています。

アレルギー・リウマチ性疾患をはじめとして、それ以外の分野でも診断や治療でお困りの方がいらっしゃいましたら、ご紹介いただければできる限りの対応をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

アレルギー・リウマチ科  
部長

佐藤 健夫



循環器内科 副部長  
兼 救急科部長

西村 芳興

この度、平成27年4月から赴任しました循環器内科の西村 芳興(にしむら よしおき)と申します。平成12年に山梨医科大学を卒業し、自治医科大学で初期研修を受け、循環器内科に入局しました。これまで宇都宮社会保険病院、佐野厚生総合病院などで循環器全般の

診療を行い、自治医科大学では経食道エコーを含む超音波検査やペースメーカー手術、心肺運動負荷試験、補助人工心臓などを担当しておりました。平成25年10月からは総合診療内科兼務となり循環器以外の入院患者さんも担当しておりました。

新小山市市民病院でも循環器診療だけではなく一般救急診療も行い、幅広く診療してまいり所存です。至らない点が多々あるかと思いますが何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。







内科・総合診療科  
副部長  
三瀬 順一



熊田医師の後任として4月1日付けで地域医療教育センターおよび内科・総合診療科に参りました三瀬（みせ）順一です。1961年愛媛県生まれ、1989年愛媛大学卒業、1991年から自治医大に来て、地域医療の研究、学生教育、研修プログラムの運営、地域医療機関の支援、総合診療部での診療などをしてきました。

得意なこともあまりないのですが、苦手意識もありません。来るものは拒まず、「これでいいのだ！（はやりの言葉で言えば「ありのまま」）精神」でやっています。総合診療科では、医療の専門分化と高度化が進む中で、より複雑化する健康問題を個別に切り取って分析するだけでなく、社会・経済・文化・地域・家族の文脈のなかで解決する「総合診療」を行っています。また、かかりつけ医の皆様とは病診連携・病病連携を、行政・保健・介護・福祉の皆様とは保健医療介護福祉の連携をより密にしていきたいと思っています。あたたかく、患者様・ご家族の思いを真摯に受け止められる診療ができるよう、勤めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

地域医療教育センターは、昨年5月から自治医科大学4年生の外来診療実習を指導しています。幸い、年間300名以上の患者様が快く協力してくださり、成果を上げています。

今年5月からは、小山地区医師会の先生方のご尽力により、新たに週2日、医学生が訪問診療に同行させていただくことになりました。これで地域の中で展開される医療を直に見聞し、病棟や診察室では見ることのない患者様とご家族の生活やご家庭の様子、地域の空気を感じることができるようになりました。先生方、患者様、ご家族の皆様へ感謝します。

また、新専門医制度における「総合診療専門医研修プログラム」の策定を前提に「新小山市市民病院総合医養成プログラム」（後期研修）の運用を始めました。このように新小山市市民病院は、地域で学び、地域の中で循環する医師養成システムの先駆けとして医学生・臨床研修医・専門医養成に取り組みますのでどうか、皆様のご協力をお願いします。

腎臓内科  
川又 睦

消化器内科  
副部長  
渡邊 俊司

消化器内科  
宇賀神ららと

神経内科  
林 夢夏

小児科  
山岸 佑也

外科  
東條 峰之

外科  
高橋 和也

整形外科  
中島 寛大

ご迷惑をお掛けする事も多々あるかとは存じますが、誠心誠意対応させていただく所存でございます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます

※ 今回スペースの関係上、名前だけの先生もおります。次回以降の各診療科の紹介などで改めてご紹介させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。





## 地域医療支援病院名称使用について承認されました



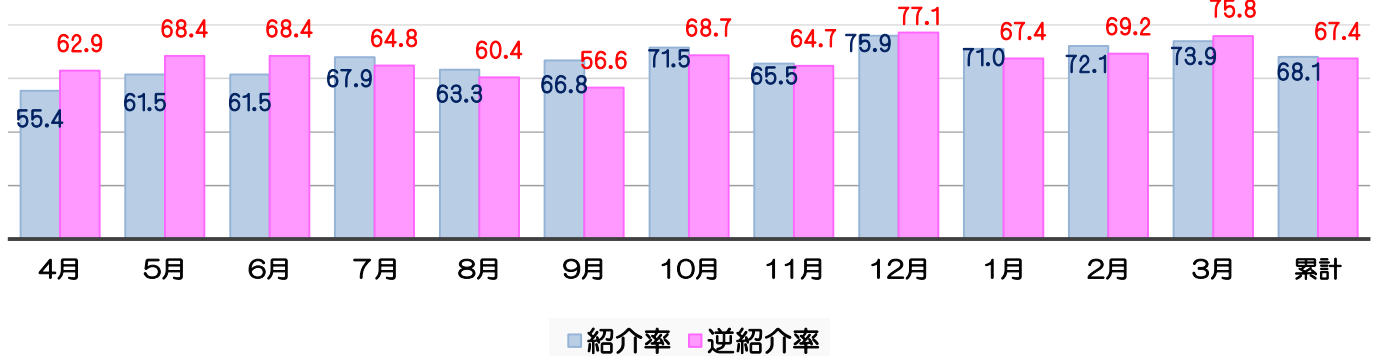
日頃より医療連携に関しまして多大なご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、紹介率・逆紹介率ともに地域医療支援病院の承認要件を満たし、4/15付けで県に申請、5/21に承認の通知をいただきました。紹介・逆紹介の他にも、承認要件である救急車受け入れ件数や施設の共同利用、地域の医療従事者の資質向上を目的とした研修会開催件数や受講者数、医療相談の件数等もまとめました。今回は、特に皆様にお世話になっている紹介・逆紹介、救急車の受け入れ、施設の共同利用についてご報告申し上げます。

平成 26 年度 紹介・逆紹介について

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
初診患者数	1,015	1,079	1,080	1,169	1,119	1,152	1,208	1,019	1,119	1,142	1,114	1,113	13,328
紹介患者数	562	664	707	796	708	767	865	723	853	811	803	823	9,082
紹介率	55.4	61.5	61.5	67.9	63.3	66.8	71.5	65.5	75.9	71.0	72.1	73.9	68.1
逆紹介患者数	638	738	744	757	676	650	823	699	872	770	771	844	8,982
逆紹介率	62.9	68.4	68.4	64.8	60.4	56.6	68.7	64.7	77.1	67.4	69.2	75.8	67.4

平成26年度 紹介率・逆紹介率 月別推移 (%)



平成 26 年度 救急車受け入れ件数 : 2,845 件 (内入院件数: 1,262 件)

平成 26 年度 共同利用の実績

- ① コンピュータ断層撮影 (CT) . . . 249 件
- ② 磁器共鳴コンピュータ断層撮影 (MRI) . . . 355 件
- ③ X線骨密度測定 . . . 0 件
- ④ 内視鏡検査 (胃カメラ) . . . 66 件
- ⑤ 超音波検査 (腹部エコー・心エコー) . . . 7 件

患者支援センター 医療連携室 山中 涼子

医療連携室 (受付時間 平日 8:30 ~ 17:15)

- ◇ 緊急時の患者紹介
- ◇ 連携医療機関からの検査予約 (胃カメラ・腹部エコー・心エコー)
- ◇ 入院患者の転入院相談



TEL 0285-21-3849 FAX 0285-21-3896

メール [renkei@hospital.oyama.tochigi.jp](mailto:renkei@hospital.oyama.tochigi.jp) ※メールでも受付しております。

➤ 紹介患者の受診予約

(内科・神経内科・循環器内科・もの忘れ外来) 予約専用 TEL 0285-21-3871